

碧い風

きらめきの地域デザイン

あおいかぜ

特集

まちを育む住民主体のコミュニティ

113

2025 July



社員一体となって アイデアと実行力を磨き 石材加工の強みを生かし 価格より価値で勝負する

鳴本石材株式会社 代表取締役
鳴本 太郎
(岡山県笠岡市)

profile

鳴本 太郎 〈なるもと・たろう〉

1979年生まれ、岡山県笠岡市北木島出身。駒澤大学卒業後、京都府の石材店で墓石の現場施工に従事。2004年に鳴本石材株式会社に入社し、2014年に代表取締役役に就任。一般社団法人日本石材産業協会(東京都)の理事や北木石材商工業組合(笠岡市北木島町)の理事長のほか、北木島の資料館などの複合施設「K's LABO」(同町)の館長も務める。売上高20億円、従業員数65人[グループ全体130人](2024年12月時点)。笠岡市や浅口市、里庄町を放送エリアとするコミュニティFM放送局「エフエムゆめウェーブ」でラジオDJとしても活躍する。

文／入江 太日利 写真撮影／西江 浩二

「北木石」の産地で創業 国内最大規模の加工工場を有す

瀬戸内海、岡山県笠岡市の沖合に浮かぶ北木島は古くから「石の島」として知られる。大阪城の石垣をはじめ、日本銀行本店や東京駅丸の内駅舎のほか、日本橋や靖国神社の大鳥居など、日本の近代化を支えたランドマークともいえる建造物に用いられた「北木石」の産地だ。鳴本石材は北木島が発祥で、現在は笠岡干拓地の茂平工業団地に本社を構え、墓石などの製造と輸入卸販売を手掛ける。

同社は、現社長の鳴本太郎氏の父で取締役相談役の哲矢氏が1971(昭和46)年、延石の加工で創業したのが始まりだ。経済成長や霊園ブームなどで墓石の需要が急増する中、いち早く機械加工に取り組んで業績を伸ばし、1983(昭和58)年に法人化するとともに、最新鋭の設備を導入した墓石専用の加工工場を北木島に新設した。

1984(昭和59)年には原石の海外輸入をスタート。中国、韓国をはじめ、欧州や南米など輸入先を広げつつも現地に伺って直接買い付け、品質管理を

徹底した。1989(平成元)年、さらなる生産体制の強化を目指して北木島を離れ、茂平工業団地に移転した。

一方、墓石業界では1990年代、中国の安い労働力を背景に、現地の合弁会社で加工する流れが生まれた。同社は品質を守るため国内での加工にこだわったが、次第に同社が原石を仕入れる価格帯で他社が製品を輸入するようになったという。価格破壊の波に抗うことが難しくなったため、2005(平成17)年、ついに中国に製造拠点を設けた。ただし単独出資で進出し、日本材の加工に関する

品質を担保できる体制を構築して他社と一線を画している。

現在、日本国内で流通する墓石のおよそ8割が中国加工といわれるが、同社は国内最大規模の加工工場(笠岡市)での製造にも力を注いでおり、「技術の継承」という意味でも、ものづくりの場を残すのはメーカーの使命」と太郎社長は力を込める。

会社のさらなる発展に向け 価格ではなく、価値で競争する

墓石は2000年代をピークに市場が縮小している。太郎氏は2004(平成16)年に入社し、製造をはじめ、仕入れや企画、中国工場の立ち上げなどを

経験し、2014(平成26)年、社長に就任した。経営者として「いかに会社を維持・存続し、成長・発展させるか」を考え、競争優位性という視点からの取り組みを展開する。

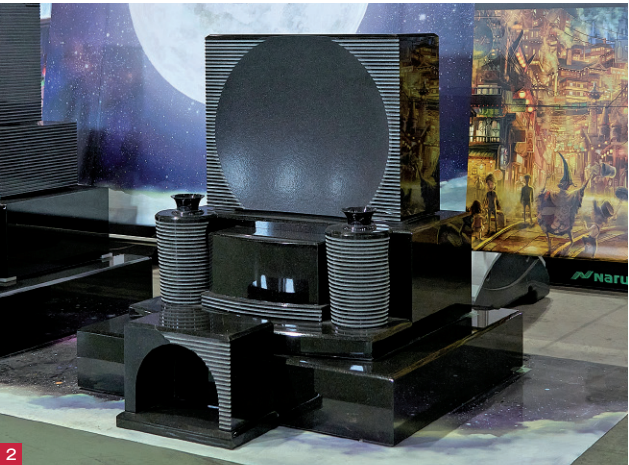
その一つが商品開発だ。「価格競争より価値競争」をテーマに据え、顧客である販売店に貢献する商品開発に取り組んだ。墓石はメーカーやブランドで選ばれる商品ではないため差別化は難しいが、同社は加工、素材、デザインという三つの視点から商品化を進めて注目されている。

加工の視点では、メイドインジャパンという付加価値を訴求したブランド「鳴本プレミアム墓石」や、皮革のよう

なしっとりとした肌触りの「レザータッチ」などが代表商品として挙げられる。

素材の視点では、愛媛県産の大島石や香川県産の庵治石、岡山県産の万成石、北木石など、仕入れの強みを生かして製作する国内10産地の高級材を使う墓石を「日本銘石物語」と銘打ち、日本の気候風土に合う国産材の良さをPRする。デザインの視点では、デザイナーとのコラボによる「デザイナーズ墓石」や「和モダンスタイル」といったシリーズに加え、絵本「えんとつ町のプペル」の世界観がコンセプトの「プペルメモリアル」などをラインアップしている。

さらに、生産や仕入れの力量の高さを誇るメーカーとして、販売店の業績を



- 1 香川県高松市で産出される庵治石は、研磨すると表面に美しいかすり模様が現れる高級石材で「花崗岩のダイヤモンド」とも呼ばれる
- 2 絵本「えんとつ町のプペル」の世界観を墓石にした「プペルメモリアル」。モチーフである満月を引き立たせるライン部分には日本に2台しかない高精度な彫刻加工機械を使用。寸分違わない間隔で美しいラインが並ぶ
- 3 まるで上質な皮のような肌触りの「レザータッチ」仕上げの墓石。通常の倍となる16回の磨きを職人の手で施している

写真提供／1 鳴本石材株式会社

向上する勉強会なども主催している。

北木石の歴史と伝統を伝える 資料館を開設

同社は創業地の北木島に2017(平成29)年、北木島の資料館を中心とした複合施設「K's LABO」をオープンした。「石材業の歴史や伝統や文化を伝えるため採掘の工程などを紹介したパネルや工具を展示しています」

それだけでは離島への集客は難しいため地域振興につなげられるように、カフェやマリッジジャー用品のレンタル、島内の移動手段になるレンタサイクルなど、拠点機能も併せ持つ。

2019(令和元)年には、北木島など瀬戸内備讃諸島の石切りが文化庁から日本遺産に認定された。さらに「K's LABO」など北木島内の3施設が産業遺産学会の2020、2021年度の推薦産業遺産に選ばれた。また、北木島などで撮影された映画『トリリオンゲーム』が2025(令和7)年2月に公開されて関心を集め、このエリアで増加する観光客の受け皿にもなっている。

50周年を機に 新しい経営理念を策定

2021(令和3)年に迎えた創業50周年を機に、新たな経営理念を策定した。「10年後の将来像を考え、『いいヒト

いモノ いいカイシャ」というビジョンができました」と太郎社長。目指す姿を冊子にまとめて浸透を図っている。

また、社屋外壁や外構の一部を改修した上、今年は西海岸風のコンセプトで本社オフィスのリニューアルを進めているという。「リラックス&リゾートのイメージで、より働きやすい職場づくりの一環です」と、ソフトもハードもアップデートに努める。

こうした取り組みの背景には、日本社会全体の課題である人手不足もある。「石やお墓に興味を持って入社する人はまずいません。斜陽産業ともいわれる地方の中小企業だからこそ、採用力が会社の命運を分けると考えています」

数年前に大手採用エージェントの活用を一切やめてSNSの発信に力を注

ぎ、若年層6人の採用につなげるなど成果を上げている。

また、「いい採用をして、いい育成をしても、いい評価制度がないと人は育っていきません」と話し、社員が将来についての不安を払拭して人生設計ができるよう、賃金や人事の制度設計を4年かけて再構築し、今年4月に刷新した。

社員の成長につながる 機会を創出

「先行きが不透明な正解のない時代。社員一人ひとりの主体性を伸ばし、いかに自立した組織になれるか。自分たちで課題を見つけて解決していくことは、働きがいにつながります」

その実践の一つが、通常業務で接する機会の少ないメンバーと部門横断型

のチームを組み、与えられたミッションの実現に取り組むプロジェクトだ。例えば、「これまでにない社内イベントを企画せよ」というミッションを受けて、社員の家族を会社に招く「会社参観日」というイベントを行った。その様子を動画投稿サイトでも発信し、会社のPRにもつなげた。こうしたプロジェクトは多い

年で10件ほどが立ち上がるという。「イベント自体の効果もありますが、成功に向けてアイデアを出し合い、試行錯誤しながら取り組む過程にプロジェクトの意義があります」と太郎社長は狙いを明かす。

新ビジョンの実現により 持続的な発展を目指す

葬送の世界では、樹木葬や散骨、永

代供養など多様化が進み、石材を必要としないケースも増えてきた。

「当社は年商20億前後で石材卸の業界では5位と大手に入りますが、シェアはわずか2%程度です。市場が縮小するとはいえ、たった2%ですから、見方を変えれば伸びしろしかない、とも言えます。やり方次第でまだまだ成長できると考えています」と太郎社長は前を向く。

「新しいビジョンに掲げた『いいヒトいいモノ いいカイシャ』の実現こそが目標。今やるべきことであり、やりたいことです」と胸を張る。

価値ある伝統を守りつつ、変革に果敢に挑む。人的資本経営による持続的な発展を目指し、100年企業への歩みを進めている。

Writer

入江 太日利（いりえたかとし）
1970年福岡県生まれ。大学卒業後、業界新聞、経済誌などを経てフリーライターに。取材記事を幅広く執筆するとともに、写真撮影なども手掛けている。



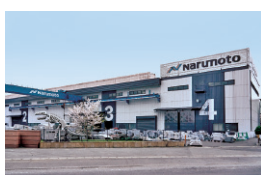
4 直径100インチ（254cm）の丸刃で石を切削。刃先には人工ダイヤモンドが使用されている。石の種類や切削位置によって刃を送る速さや工程で切り込む深さの設定を変えている

5 「会社参観日」などの社内イベントを企画する、部門横断型プロジェクトチームの会議

6 北木島でオープンした資料館を中心とした複合施設「K's LABO」。カフェやレンタサイクルなど、観光の拠点としての機能を持つ

7 社内にはさまざまなタイプの墓石が並ぶ

写真提供／5・6 鳴本石材株式会社



鳴本石材株式会社
岡山県笠岡市茂平2918-23
☎0865-66-1414
<https://www.narumoto.co.jp/>
YouTube、Instagram、TikTok、
Facebook @narumoto.co.jp